

北陸でナガサキシダが採集された

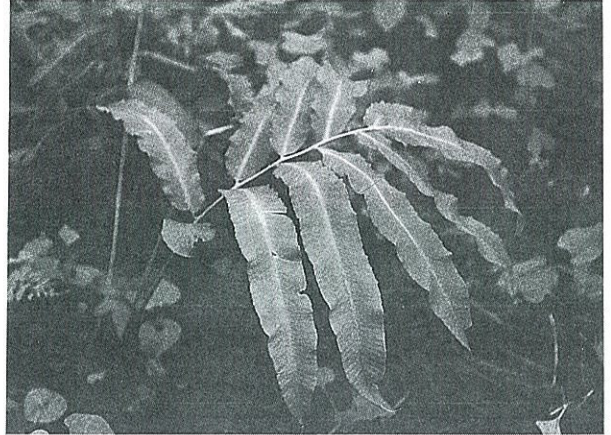
著者	小野 ふみえ, 浜野 一郎
著者別表示	Ono Fumie, Hamano Ichiro
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	38
号	2
ページ	106-106
発行年	1990-12-25
URL	http://doi.org/10.24517/00055928

○ 北陸でナガサキシダが採集された (小野ふみえ*・浜野一郎**) Fumie ONO and Ichiro HAMANO: *Dryopteris sieboldii* Found in Hokuriku District.

ナガサキシダ *Dryopteris sieboldii* (v. HOUTTE ex METT.) O. KUNTZE の分布図は倉田悟・中池敏之共著の日本のシダ植物図鑑 (第1巻, 486頁) に掲載されているが、これで見られるとおりに、本州では山口県を除くと点在する位で、産地は少ない。しかも日本海側には知られていない。

著者等は石川県河北郡津幡町内 (石川県石動山で、かつてオニクラマゴケが発見されたが、それを絶滅させてしまった前例を繰返さない為にも詳しい地点の公表をさしひかえる) で採集した。我々は初めて見るものであったから元金沢大学教授里見信生先生

に見ていただいたところ、ナガサキシダであると同定され、思いがけない種類を石川県のフローラに加えることができ、喜ばしく思っている。(* 石川県教育センター, ** 石川県津幡中学校)



○ 中西弘樹 海流の贈り物 (漂着物の生態学) 平凡社 (自然叢書 15), 平成2年7月16日発行。B6判, 256頁。2,200円 (税込み)。

海岸を歩くと、近年は何処にもプラスチック製品・ポリ袋・流木に罐や瓶などで、汚れが目立っている。腐り難い化学製品が世に出ていない以前は流木を材料として拾い、おのづから清掃されていたし、罐や瓶などを抛棄するような忌むべき行為は少く、白砂青松の美しい景勝が保たれていたのである。

それはさておき、海流は種子・果実や幼植物を運び、植物分布の上で興味ある問題の一つである。私はかつて、書店の書架に、石井一忠著“漂流物の博物誌 (1977)”を見つけ、その晩一気に読了した。本著も同様、一息に読み終えたが、多くの方々に御購読をおすすめしたい本である。 (里見信生)

○ 奥原弘人 信州の野草 信濃毎日新聞社。1990年7月15日発行。A5判686頁。3,800円 (税込み)。
信州の植物研究の第一人者として知られた著者が、今度は大部な野草の写真図鑑全一巻を出版された。頁をめくるとはじめに保育社刊「検索入門」型の科または科群への検索表があり、続いて植物用語の図解があって導入部分となっている。本文で扱った植物は、ほぼ1300種、1頁に大い2種ずつの写真と簡単な解説を入れるといった編集方式である。この本にはシナノキンバイを除き、高山植物は含まれていないので、信州の亜高山帯以下の草本はほとんど網羅されていることを示している。ただ、ルイヨウボタンの果実といった写真説明や、ヤマシャクヤクやシラネアオイが未だにキンポウゲ科に入られている点などは、専門家の手助けが必要な面だろう。また、写真の撮影者は明記されていないが、相当部分を岡谷市在住の今井建樹氏が分担されたと聞く。単なる謝辞以上の処遇が必要だったのではないかと思われる。いずれにしても、この本は著者の50年以上に及ぶたゆまざる信州植物探索の結晶であり、その該博な植物の知識には、改めて驚きを禁じ得ない。

○ 金井弘夫編 日本植物分類学文献集 目録・索引4 1945~1988 アポック社。1990年8月31日発行。A4判783頁。2,000円 (税込み)。

金井博士が、1935年に本文集の刊行に着手して9年3ヶ月、このたび第4集が刊行の運びとなった。第1集で採録された文献が1973~1982年、第2集が1973~1985年、第3集は1960~1986年のものであったが、この第4集では1945~1985年の戦後の43年間における文献約13000件が収録され、全4集の件数は4万件に達した。目録は著者名のアルファベット順による文献目録の部と索引の部の2部から成り、索引の部は植物群別、地域別、雑項目、人名、植物名各索引に分かれている。とくに便利なのは、索引の部で索引を組み合わせれば、誰がどこの何の植物についていつ何に書いているかが忽ち判明する。コンピュータ編集はプログラム作りと入力作業は大へんな仕事であるが、このように出来あがってくると何と便利なものかと思う。学生からの多様な質問に答えられるのもこの4冊が座右にあればこそである。金井博士の長年の御努力に対して心から敬意を表するものである。 (清水建美)